

令和4年度校内現職教育計画

1 学校教育目標

【 人間性豊かで、主体的に生きる たくましい児童を育てる 】

2 研究主題

郷土への愛情をもち、ともに未来を切り拓く児童の育成
－探究的な学習の過程における「問いと見通し」と「振り返り」の充実を目指して－

3 研究主題の設定について

現在、子どもたちを取り巻く社会は、急激な変化とともに超高齢化、少子化などの課題が顕在化し、先を見通すことが難しい時代を迎えている。さらに、2年に及ぶ新型コロナウイルス感染症対策のための行動制限やGIGAスクール構想によるタブレット端末の導入は、教育現場での生活・学習の在り方に大きな変化をもたらした。こうした社会をたくましく生き抜くためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成や学びに向かう力の向上、情報機器等を用いて正しく情報を活用する能力、主体的に多様な人間関係を結んでいく力の育成を重視する必要がある。

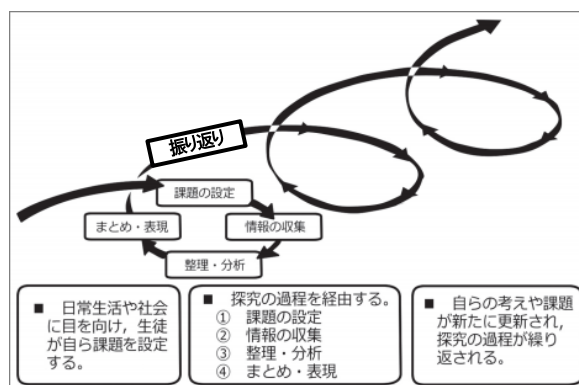
本校の児童は、明るく素直な児童が多いが、自ら考えたり表現したりしながら主体的に活動することに課題が見られる。令和3年度県学習状況調査の結果からは、国語・算数・社会科において県平均を下回り、基礎的な知識・技能及び思考力や判断力、表現力など全般において課題が見られた。質問紙の結果からは、「授業は楽しいと思いますか。(66.7%)」「勉強は好きですか。(41.7%)」と学びへの興味が低い児童が多く、自分で計画を立てて学習に取り組んだり、自分の考えを伝えるために工夫したりすることは苦手なようである。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。(58.3%)」と他者との協働的な学びによる課題解決や自己の高まりに対する認識にも課題が見られる。

本校は昨年度、令和5年度に実施される生活・総合的な学習の研究大会に向け、生活・総合的な学習を中心とした研修を行った。感染症対策のため、地域との交流が制限される中ではあったが、できる限り地域に出かけたり、ゲストティーチャーを招いての体験活動を実施したりした。教室では、電子黒板や思考ツールを活用しながら、様々な形態で話し合い活動を行ったり、学年を超えた交流による学び合い活動を行ったりする学年もあった。しかし、ここ数年の県学習状況調査の質問紙調査によると、今住んでいる地域の歴史や自然、産業についての関心が低く、将来の夢や目標をもてない児童が多いという結果であった。

昨年度、学習計画を立てる上で、4つの視点(A「問いと見通し」 B「グループ活動の充実」 C「表現力」 D「振り返り」)のいずれかに重点を置いて学習指導をしてきた。楽しそうに活動している児童は多いが、「問いと見通し」の段階で、課題が顕在化していく体験や児童の主体性を促す仕掛けが不十分であったり、教師と児童でゴールの共有ができていなかったりすることで、学習課題を自分たちの課題として捉えきれないまま活動している児童が見られた。「表現」の段階で何をどのように伝えればよいか分からなかったり、「振り返り」の段階で、自分たちと地域が結びつかないまま、まとめをしてしまったりする児童もいた。そのため、活動自体は楽しそうに見えても、「学び」として身につけていない児童もおり、成果の積み重ねが不十分で地域の課題に働きかけることができたという実感がもてず、結果として地域への関心が低くなってしまったのではないかと考える。

そこで、本年度のテーマを「郷土への愛情をもち、ともに未来を切り拓く児童の育成」とし、サブテーマを「探究的な学習の過程における「問いと見通し」と「振り返り」の充実を目指して」に

設定した。本校の児童の課題となる学びへの意欲や協働的な学びにおける伸びの実感、地域に対する関心や誇りといった点を、昨年度から引き続き、総合的な学習の時間を軸とした探究的な学びの充実を通して改善したい。ここでいう探究的な学習の過程は①【課題の設定】②【情報の収集】③【整理・分析】④【まとめ・表現】⑤【振り返り】※¹と考え、それらの充実を図るために昨年度の学習指導で重点をおいた4つの視点(A「問いと見通し」 B「グループ活動の充実」 C「表現力」 D「振り返り」)での研究を活用し、さらなる充実を目指す。なお、前年度の成果と課題を踏まえ、中でもA「問いと見通し」とD「振り返り」について焦点化して研究・実践に取り組むこととする。また、生活科においても、児童の思いを大切に探究的な学びの実践を図る。



※¹ 甲南女子大学教授 村川雅弘氏の提唱する探究のプロセス

4 研究内容・方法について

上記を受け、以下の4点を研究・実践の視点としてもち、児童の具体的な姿として成果を残すことができるように取り組んでいくことにする。

- (1) 【課題の設定】 【情報の収集】を充実させるための「問いと見通し」
- (2) 【整理・分析】を充実させるための「グループ活動の充実」
- (3) 【まとめ・表現】を充実させるための「表現力」
- (4) 【振り返り】を充実させるための「振り返り」

(1) 【課題の設定】 【情報の収集】を充実させるための「問いと見通し」

総合的な学習の時間にあつては、児童が実社会や実生活に向き合う中で、自ら課題意識を持ち、その意識が連続発展することが欠かせない。しかし、児童が自ら課題をもつことが大切だからといって、教師は何もしないでじっと待つのではなく、教師が意図的な働きかけをすることが重要である。また、【情報の収集】は課題の解決に必要な情報を収集する活動であり、そのことを自覚的に行うことが必要となる。「何のために」「何を」「どのように」取り組むのかといった「問いと見通し」を共有することが重要であり、具体的な仕掛けと手立てを考えたい。

(2) 【整理・分析】を充実させるための「グループ活動の充実」

収集した情報は、それ自体はつながりのない個別なものであり、それらを種類ごとに分けるなどして整理したり、細分化して因果関係を導き出したりして分析する必要がある。情報に意味を見出す時、児童によって捉え方は異なり、協働的に活動に取り組む必要感が生まれる。その時、どのような方法・環境で情報の整理や分析を行えば「グループ活動の充実」が図られるのか考えたい。

(3) 【まとめ・表現】を充実させるための「表現力」

課題を解決するために獲得してきた学びを相手や目的を明確にしてまとめたり、表現したりする際には、報告会を開いたりパンフレットを作成したり社会への参画を行ったりするなどその具体的な方法を選択し、実現するための「表現力」が求められる。地域社会における課題を解決することにつながった際には、自分が地域社会に役立っていると感じ、確かな自信が生まれてくることにもつながる。どのようにして一人一人の「表現力」を培い、支援することができるのかを考えたい。

(4) 【振り返り】を充実させるための「振り返り」

「振り返り」の場があることで探究のプロセスを通して課題を解決するためにいかに自分が学び、取り組んできたかを振り返る中で、自己の伸びや地域社会とのつながりを自覚したりすると

ともに、新たな課題が生まれたりしてくるのではないかと考える。「振り返り」の場や方法をどのようにすることで表面的でない深まりのある探究的な学びが実現するのかを考えたい。

研究方法については、各学年1本の授業研究や実践のまとめ・交流を主な方法として取り組み、目標とする「郷土への愛情をもち、ともに未来を切り拓く児童の育成」を図りたい。

5 研究組織

